

夏～秋期節水かん水による温州みかんの品質向上技術

消費の高品質嗜好に対し、糖度の高い良食味の果実を生産するためには夏秋期の水管理が重要となる。

そこで花崗岩土壤に植栽した19年生興津早生を供試して夏～秋のかん水量の違いが温州みかんの着色、Brix、減酸に及ぼす影響を明らかにし、高品質果実生産のための土壤水分管理方法を検討した(表1)。

夏(8月)にかん水量を抑えると果実の肥大が悪く小玉果が多くなり、収量が低下するものの、着色が優れ、糖度が高くなる結果が得られた(表2)。糖度上昇カーブから推定して、横径50mm頃(9月上旬)に糖度が9度以上あれば収穫時には糖度が12度以上になる

可能性が高いと思われる(図)。クエン酸についてはかん水量の違いによる差はみられなかった。

以上の結果から、高品質果実生産のためには夏期(8月)に樹体にストレスがかかる程度に節水かん水を行うことがポイントであり、夏期に降水量が少ない年のマルチ栽培では、8月に7日間隔で10～15mm程度の樹冠下かん水が有効である。なお、今年は7月に降水量が多く、果実肥大は良好であるが土壤乾燥がなく糖の上昇が緩慢となっている。このため今年はマルチ栽培により樹体にストレスを与えることが品質向上を図る重要な対策となる。

(柑橘栽培班 主任研究員 藤原文孝)

表1 時期別かん水量(1995)

試 験 区	夏 期			秋 期					総かん水量 (mm)
	8/9	22	29	9/5	9/12	19	27	10/3	
夏 秋 期 節 水 区	5mm	10	10	10	5	5	5	5	55
夏期節水秋多灌水区	5	10	10	10	15	15	15	15	95
夏多灌水秋期節水区	15	20	20	20	5	5	5	5	95
対 照 区 (露 地)			69						98
									降水量167

注) 平年降水量(8～9月) 270mm

表2 収量及び果実品質

試 験 区	収 量 (kg/樹)	階 級 S ≥ (%)	着色果率 9分 ≤ (%)	1 果 重 (g)	Brix	クエン酸 (g/100ml)
夏 秋 期 節 水 区	25.3	68.9	90.2	107.3	12.8	0.82
夏期節水多灌水区	28.2	64.1	94.1	106.4	12.6	0.83
夏多灌水秋期節水区	32.5	50.4	85.6	113.4	11.6	0.79
対 照 区	38.4	22.6	70.9	126.2	10.0	0.73

注) 1995.12.4 果実分析

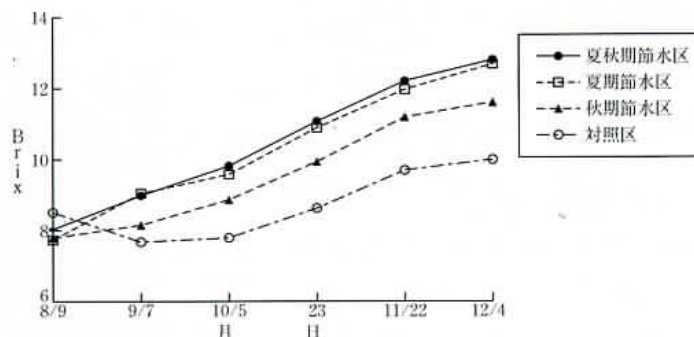


図 糖度の推移(1995)